
大切な君へ

黒耀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大切な君へ

【Nコード】

N3274Z

【作者名】

黒耀

【あらすじ】

愛している人に宛てた最後の手紙

ずっと一緒に居るって約束したのに、守れなくてごめん。

君は今、笑っていますか？

正直、俺以外の隣で君が笑っているって思うと、嫉妬で狂いそうになるよ。

それと同時に、君の側に居られない俺が嫌になるんだ。情けないだろ？

俺が君の隣に居られなくなるって分かったとき、絶望した。涙が溢れ出た。頭の中で「どうして？何故、俺が？」ってグルグル渦巻いていたんだ。でもさ、暫く落ち込んで吹っ切れた、「どうせなら君と一緒に思い出を抱えて、俺の中を君でいっぱいにしてやるう。」って。笑うなよ？

そう思った事、今はちょっと後悔してる。本当はあのとき君の側を離れるべきだった。そうすれば君にあんな顔させなかった。俺の願いは、君が笑顔でいることなのに、この俺が笑顔にさせてやれなかった、ごめんな。

君は、いずれ俺なんかよりもいい男に会って、幸せな家庭を築いていってくれ。無理にとは言わないけど、幸せになってくれ。俺のこととは忘れていいから。

だけど最後に言わせてくれ。

愛してる。この先、永遠に俺は君を愛し続ける。君しか愛せない。

だから、来世でも君に会いたい。

俺がこんな事を思う日が来るなんて、思ってもみなかっただろう？君と出会えて本当に良かった。君と過ごした日々は俺にとって、言葉で表す事が出来ないほど大切なものだ。俺はこの日々を忘れない、忘れる事は出来ない。

ゴメン、本当は君に忘れられたくない。だけどそれ以上に、君の幸せを願うよ。

たくさんのお愛をありがとうございます。
愛を受け取ってくれてありがとうございます。幸
せな日々をありがとうございます。

(後書き)

愛している人を残して逝ってしまった人からの手紙をイメージしてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3274z/>

大切な君へ

2011年12月11日11時46分発行